夢童

菅波　茂

インド・ブッダガヤ、AMDAピース・クリニック完成

昨年からインド・ビハール州ブッダガヤに建設していたAMDAピース・クリニックが完成し、今月1日に開所式があった。ブッダガヤは、仏陀が難病苦行の後にスジャータという娘から差し出された乳粥を食べて悟りを開いた地である。ブッダガヤではアジア各国の仏教寺院がそれぞれの建築スタイルを競っている。壮観である。

悟りが開かれた菩提樹の場所に建立され、世界遺産に登録されている大菩提寺から1キロ以内には、仏教寺院の建立しか許可されていない。しかし、AMDAピース・クリニックは日蓮宗の太生山一心寺別院付属クリニックとして建設が可能になった。結果として、NGOの「命の普遍性」と、宗教の「魂の永遠性」とが一体となった貴重な施設となった。完成までに7年の歳月を要した。日蓮宗身延山妙石坊および一心寺の関係者の方々やご支援をいただいた方々に厚く感謝申し上げたい。

私が最初にブッダガヤを1人で訪れたのは40年前。当時、22歳の医学生だった。当時インドを旅する日本人は珍しく、ブッダガヤにもほとんど日本人はいなかった。その地にAMDAピース・クリニックを建設できて感無量である。AMDAからは、代表の私に加えて、AMDAインド支部長カマト医師とスリランカ支部長サマラゲ医師らが参加した。診療はスリランカ人のアユルベーダ医師であるクサラ医師が行う。スリランカ・アユルベーダ医学協会と製薬会社が1年間に必要な経費支援を申し出てくれた。国民の7割が仏教徒であるスリランカの人たちにとって、ブッダガヤは大切な聖地である。ここを訪れる外国人の第1位はタイ人、第2位がスリランカ人である。さらに台湾人、韓国人と続く。

ブッダガヤにあるガヤ医科大学の生理学教授であり、インド医師会ガヤ地区医師会長でもあるシンハ医師は、私と同年齢の62歳だった。彼からリクエストを受けた。ブッダガヤでは救急医療が未整備である。AMDAピース・クリニックに心臓超音波、心電図モニター、24時間心電図などを整備し、3、4床のベッドを備えることができれば、5分以内に現代医学の医師を派遣することができると。ビハール州はインドでも最も貧しい地域である。2年前に訪問した時と同じく、同医科大付属病院外来センターの窓ガラスが破れたままだったのが印象的だった。

インドでは貧しい人たちの診療は無料であるが、薬代は有料である。まして、外科手術を受けることは困難である。来年以降、毎年11月にAMDAピース・クリニック設立記念として、口唇裂や口蓋裂の手術を実施するAMDA合同医療ミッションを企画している。少女が結婚を、少年が就職できるように。構成メンバーは日本、スリランカ、台湾など仏教国、そして地元のインドの医師を予定している。AMDAピース・クリニックを活用した合同医療ミッションの活動、救急医療の整備、災害医療対応医療機関としての機能拡大のために、インド医師会ガヤ地区、ガヤ医科大学との連携協定についてシンハ医師と話し合った。7年間の〝難産〟を経て誕生したAMDAピース・クリニックが、仏陀の説く「慈悲の心」をどのくらい実践できるか期待していただければ幸いである。

（AMDAグループ代表）